辺野古通信

第19号　2010年5月7日

空前の大結集となった 4.25 沖縄県民大会

発行:沖縄の自立解放闘争に連帯し、反安保を闘う連続講座

沖縄講座 HP　http://www7b.biglobe.ne.jp/~okinawa-koza/

沖縄を孤立させるな！普天間基地の即時閉鎖を求め5月現地闘争へ

■「普天間基地は国外、最低でも県外移設」と公言してきた鳩山政権だが、5 月 4 日に訪沖した鳩山総理は、仲井真知事や名護市長等と会談し、「抑止力の維持」を理由に「沖縄に負担をお願いしたい」と県内移設(＝辺野古新基地建設の復活)を初めて明言。沖縄では鳩山政権への落胆と強い怒りの声が広がっている。■自民党政権が連綿と築いてきた日米関係を踏襲するのか、沖縄の声に真摯に耳を傾けアジアに開く方向で根本的に見直すのか。問われているのは鳩山政権だけではない。戦後 65 年、沖縄の軍事植民地状況を結果として許してきたヤマトの反戦・反基地運動の歴史的総括が求められているのではないか。私たち沖縄講座にとっても正念場だ。■3 月から 4 月にかけて、毎週金曜日の総理官邸要請行動、国会前座込み、ハンガーストライキ等々、国会周辺には「世界一危険な」普天間基地の即時閉鎖を求める沖縄の人々とその行動に連帯する人々の輪が途切れることなく続いてきた。4 月 25 日、沖縄では空前の 9 万人集会。同日同時刻に全国各地でも連帯行動が取り組まれ、東京でも社会文化会館の集会と国会デモに 1000 人、夜には明治公園に 1200 人が集まり、キャンドルで NO　BASE　OKINAWA の人文字アピール。26 日には沖縄から上京した約 100 人の代表団が政府や関係閣僚への要請行動を展開し夜には約 600 人で東京集会、27 日に国会前に座込み。沖縄の全市町村の首長や議会関係者を含む国会前座込みは前代未聞。ヤマトの側からの連帯行動参加は決して多くはなかったが、結成50年を迎えた厚木基地爆音防止期成同盟が 4 月上旬に沖縄交流ツアーを挙行し国会前座込みにも合流したことに注目したい。５月２３日には、神奈川でも岩国でも、沖縄に連帯する米軍再編反対行動が予定されている。■「歴史的政権交代」を果たした鳩山政権とオバマ政権に沖縄の人々が求めているのは、戦後 65 年変わらぬ軍事植民地状況からの脱却であり、その元凶である日米安保体制の抜本的見直しだ。沖縄を孤立させない具体的な連帯行動が求められている。辺野古･高江新基地建設断念を！普天間基地即時閉鎖を求め 5.16 包囲行動へ！

■辺野古･高江カンパは累計 1,097,762 円（５月７日現在）。カンパを！

郵振 00210－0－2021 沖縄連続講座

5.16 普天間基地包囲「人間の鎖」行動へ！

写真は宜野湾市 HP から

５月 16 日（日）14 時―15 時、普天間基地包囲行動が呼びかけられています。沖縄講座では、５ 月 14―17 日の日程を基本に、第 14 回沖縄ピースフルツアーを実施し、16 日の普天間包囲行動に参加します。普天間包囲行動は５年ぶり５回目。３万人の結集をめざし「世界一危険な」普天間基地即時閉鎖･返還をアピールします。

4 月 25 日の沖縄県民大会参加者は 90000 人、空前の大結集となった。会場の読谷村運動広場は人の波で埋まった。読谷村に向かう車の列で、県道と国道 58 号は十数キロの大渋滞。大会終了までに会場に辿り着けない人々が続出した。

2 年前の教科書問題の県民大会は 11 万人と発表されたが、その時よりも人が多かった、という感想を何人かから聞いた。基地問題では最大の結集とされた、95 年の少女レイプ事件に抗議する 10.21 県民大会が 8.5 万人。今回はそれを上回る。人数が問題ではないが、わずか 138 万人の島で万余の人々が集まり声を上げる。何回繰り返せば、沖縄の声は日米両政府に届くのか。会場には黄色いタオルやリボンがあふれていた。鳩山政権へのイエローカードだ。大会に参加できない人も、自宅で、職場で、思い思いの場所で意思表示したという。まさに沖縄の島ぐるみの声だ。レッドでなくイエロー。ここに沖縄の人々の〈怒り〉と、「歴史的政権交代」を果たした（はずの）鳩山政権への〈祈り〉にも似た思いが込められている。

13 時からオープニングイベントがスタート。沖縄の若い世代がロックやラップ、島唄の音楽に乗せて放つ熱い平和へのメッセージが強烈な印象を残した。万余の大結集の熱気の中で、沖縄の現状に疑問を感じ異議を申し立てる若い世代が確実に育っているように思えた。

会場には、自治体ごとに首長・議員・地域組織・青年会・婦人部が入場、自民党・公明党も含めて全政党が旗を掲げて入場する姿も見られた。壇上には県内 41 市町村長(代理 2 名)、地域

大会決議文

普天間飛行場の返還は平成８年日米特別行動委員会(ＳＡＣＯ)合意から 13 年経過した今なお実現を見ることはなく、その危険性は放置されたままです。／しかも、平成 16 年(2004 年)8 月 13 日に発生した沖縄国際大学構内への米軍海兵隊所属ＣＨ53Ｄ大型輸送機ヘリコプターの墜落事故は、市街地に位置し、住宅や学校等が密集する普天間飛行場の危険極まりない現実を明らかにしました。一歩間違えば大惨事を引き起こしかねず「世界一危険な飛行場」の存在を改めて内外に明らかにしています。／しかも、平成 18 年（2006 年）の在日米軍再編協議では同飛行場の全面返還を合意しており、県民や宜野湾市民は、最も危険な普天間飛行場を早期に全面返還し、政府の責任において跡地利用等課題解決を求めているのです。／私たち沖縄県民は、去る大戦の悲惨な教訓から戦後一貫して「命どぅ宝」、基地のない平和で安全な沖縄を希求してきました。にも関わらずＳＡＣＯ合意の「普天間飛行場条件つき返還」は新たな基地の県内移設に他なりません。県民の意思はこれまで行われた住民投票や県民大会、各種世論調査などで明確に示され、移設先とされた名護市辺野古沿岸域は国の天然記念物で、国際保護獣のジュゴンをはじめとする希少生物をはぐくむ貴重な海域であり、また新たなサンゴ群落が見つかるなど世界にも類をみない美しい海域であることが確認されています。／名護市長は、辺野古の海上及び陸上への基地建設に反対しています。また、勝連半島沖埋め立て案についてはうるま市長・市議会ともに反対を表明しています。／よって、私たち沖縄県民は、県民の生命・財産・生活環境を守る立場から、日米両政府が普天間飛行場を早期に閉鎖・返還するとともに、県内移設を断念し、国外・県外に移設されるよう強く求めるものです。／　　以上決議する。

▽大会スローガン

日米地位協定の抜本的改定を求める。

返還後の跡地利用を促進するため、国の責任で、環境浄化、経済対策などを求める。

返還に伴う、地権者補償、基地従業員の雇用確保を国の責任で行うよう求める。

2010 年４月 25 日　４・２５県民大会

政党も含めた全政党の議員、市民団体代表が並んだ。15 時、読谷高校生の司会で開会。普天間高校の 2 人の女高生の「低空飛行する機体に『うるさい！』と叫んだこともある。フェンスで囲まれているのは基地なの、私たちなの？」という発言が強く印象に残った。首長の中では、ぎりぎりまで出席を躊躇っていた仲井真知事の発言が注目された。「県内移設反対」こそ明言しなかったが、「普天間の危険性除去」「過剰な基地負担の大幅な低減」を強調、「ガンバローでは拳は上げない」とも伝えられたが、周りに促されるように拳はしっかり上げていた。

万余の人々のガンバローの声が、白い雲が流れる青い空の下で響き渡った。65 年前の 4 月 1 日、米軍は読谷村にある渡具知の浜に最初に上陸した。会場周辺は米軍に占領され基地となった土地を村長先頭にした米国との粘り強い直接交渉で村役場を含む公共用地として奪い返した場所だ。反基地闘争の原点とも言える歴史的な空間で、沖縄の歴史を画する大集会は開かれた。

鳩山政権もオバマ政権も、もはや沖縄の声を踏みにじることは許されない。

3 月から 4 月にかけて、国会周辺で沖縄の人々を中心に様々なアピール行動が展開された。毎週金曜日の総理官邸要請行動、国会前座込み、ハンガーストライキなどなど。しかし、鳩山政権から聞こえてくるのは・・・・

■毎週金曜日の夜、沖縄・一坪反戦地主会関東ブロックの呼びかけの総理官邸要請行動。鳩山政権の迷走状態が報道される中で、参加者が徐々に拡大し、3 月 26 日の夜には約 150 人参加。冷たい雨の降る中、国会記者会館前の歩道に集まった参加者は、官邸に向けて「鳩山総理は沖縄の民意に応えよ」のシュプレヒコール。1 ヶ月間で集めた緊急署名 8119 人分と要請書を代表 10 人で官邸に提出。東京在住の沖縄出身者・上原成信さんは「我々には中身を隠し通して、まず米国にお伺いを立てる。これが対等な交渉といえるのか！これではこの内閣は打倒するしかなくなる！」と怒りの発言。■4 月 6 日から 9 日まで、読谷村議の知花昌一さん、彫刻家金城実さん、ヘリ基地反対協安次富浩さんらの呼びかけで国会前座込み行動。沖縄選出の国会議員も連日顔を見せた。■4 月 19 日から一坪反戦地主会関東ブロックの下地さんが 72 時間のハンスト突入（写真左下）。■4 月 26 日には県民大会を成功させた沖縄代表団約 100 名が総理官邸と関係省庁要請行動。27 日には首長や議会関係者が断固として国会前座込み。伊波宜野湾市長の姿も（写真下）。

米軍住宅追加建設反対！池子の森を守る全国大会に1200人

4月11日、逗子市内で米軍住宅追加建設反対！池子の森を守る全国大会開催。満開の桜に囲まれた会場には、約1200人が参加。沖縄からもヘリ基地反対協の安次富浩代表が連帯アピール。「沖縄には米軍も自衛隊もいらない！神奈川と沖縄が連携しよう」と訴えた。

沖縄連帯集会で高良勉さんが講演

四月十七日、東京・千駄ヶ谷区民会館で、沖縄の詩人・批評家の高良勉さんの講演集会（実行委員会主催）が開かれ、約六〇人が参加。三線演奏や島唄、詩の朗読も交えながら、高良さん自身の体験の中に刻まれた沖縄の文化と自立解放の闘いの歴史と現状について学ぶことができました。

講演の後、沖縄一坪反戦地主会・関東ブロックの上原誠信さん、命どぅ宝ネットワークの太田武二さんから連帯挨拶。主催者からは当面の沖縄連帯行動について行動提起がありました。

高良さんは、日本復帰前の六八年に米軍占領下の沖縄から「外国人」としてパスポートを持って静岡大学に留学した自身の体験から語り始めました。そして昨年の「薩摩侵略四百年、琉球処分百三〇年」を問う沖縄の取り組み、一九五〇年代からの「島ぐるみ闘争」の歴史、七〇年代からの琉球弧住民運動の歴史、六〇年代反復帰論から琉球民族の自決権確立・琉球独立運動等々、戦後の沖縄の闘いの歴史を紹介。「生活・生産・文化の三位一体の闘い、島ぐるみ闘争の体験の蓄積の重視、小異を残して大同へ、の三点が琉球弧の闘いからの教訓」と強調し、最後に「老樹騒乱」という詩をウチナーグチで朗読、講演を締めくくりました。

追悼・厚木爆同委員長の鈴木保さん

突然の訃報だった。4月27日午前1時半、動脈瘤破裂。享年84歳。死の直前の4月上旬には沖縄訪問、そして横田基地視察、26日には第四次厚木爆音訴訟の公判。沖縄のことを最後まで心配していた。沖縄講座は結成間もない96年12月の神奈川県内基地巡りで厚木基地を案内していただいた（写真）。いつも私たちの活動を暖かい目で見守っていただいたように思う。神奈川の、いや全国の反基地運動にとってかけがえのない存在だった。ご冥福をお祈りします。（F）